2022 年 12 月 1 日発行

ビオトープだより第 23 号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
https://www.biotope.gr.jp/

1．北海道だより

個人会員、幌加内ビオトープ研究会代表　内海 千樫

利己的な農業

私は長らく農業に携わっており、いつも農業の味方でありたいと思っています。我が国の食料自給率がもっと高くなって欲しいと願っています。私が新規入植したのは昭和 53 年（1978 年）の事で、寒冷地の水田に囲まれた地でありました。

秋になると私の家の前に古タイヤが積まれ、霜注意報が出ると、タイヤを燃やせと言われました。水田農家でなくても地域一帯で一晩中燃やし、稲を霜の害から守るのが地域に住む住民の当然の義務だと言われました。

夕闇が迫るとあちこちでタイヤと枯草に火がつけられ、黒い煙で地域全体が包まれました。火が消えそうになるとタイヤと枯草を継ぎ足し、一晩中火を絶やさないようにするのです。

しかしいつの頃からかこの作業は行われなくなりました。運送業界からトラックの走行に支障をきたすというクレームがあったのと、耐寒性のある稲が作られたこと、温暖化の影響もあったのでしょう。農業地帯では農業第一主義で誰も異論を唱える人はいないのです。

未来に向けて

実際農業に携わっていて、広く俯瞰的に見ると、現代的な問題に即していないことが目につきます。SDGs、生物多様性、他産業、地域との協調ということに対しての認識に欠けるという点が目につきます。

当地には市街地から数 km の地点に雨煙内ダムがあり、ダム湖周辺が幌加内湖公園キャンプ場になっています。４月の下旬になると数千羽のコハクチョウが渡りの居留地としてやって来ます。

飛来したコハクチョウ

飛来したコハクチョウ

ペケット山から見た幌加内湖

立ち入り禁止になっているダムへの道

ダムの上を通るとペケット山へ行くことができます。以前小学校の遠足でも利用していました。

ペケット山への道に続くダムの入り口は立ち入り禁止になっています。白鳥の観察ポイントへも行かれません。

夏のキャンプ場

静かな湖畔はキャンプ場として人気があります。

水を抜いたダム湖

毎年 8 月になると水を抜いてしまいます。農業用だから用が無くなれば抜くと言います。10 月中旬まで入れておいてくれれば、北からやってくる白鳥やマガンの中継地になると頼んでも、決まりだから駄目だと言われます。水を完全に抜いてしまうので、魚や他の水生の生物も棲めず、水草も生えません。

キャンプ場としての魅力も無くなり、キャンプを止めて帰ってしまう人もいます。広大な不毛の地が現れます。

河川改修

３面がコンクリートで固められた用水には、子供の頃に魚捕りに親しんだ小川の姿はありません。

戦争と貧困と疫病の時代

ベストセラーになった「サピエンス全史」の著者ユヴァル・ノア・ハラリの最新作「ホモ・デウス」の中で、このままでは人類は戦争と貧困と病気の新時代に突入する。と語っています。いや既に突入しています。

何が原因か、どうすれば回避出来るのかは分かっている筈です。しかし、遅々として進まない。何故かといえば、世界の最優先課題は経済成長だからであり、利益が上がらないことはできないからです。これらの取り組みは自分がやることではない、何処かがやってくれることだと誰しも思ってしまう。農業は緑の産業で優等生という意識がある。しかし、全ての分野で取り組まなければもう間に合いません。

昔、毛沢東が稲を食害するという事でスズメを撲滅することを実行し、意に反して、稲の収量が激減したという結果になりました。確かに稲が稔るとスズメがやって来ますが、稲を食べてスズメが育った訳ではなく、稲を食害する昆虫を食べて育った訳です。

私の住んでいる地域では、数十年前には群れをなして飛んでいたスズメの姿が田畑から殆ど消えてしまいました。逆に市街地で少し見られる程度です。しかし米の収量は増えています。それで農民は何の問題も感じません。昆虫もいなくなっているからです。無人ヘリによる殺虫剤散布でバッタもいなくなり、群れを成していた赤トンボも見られなくなりました。

プラスティックコーティングの農薬の使用は、マイクロプラスチックの川への流出を引き起こしています。

地球上に棲息する 5Kg 以上の鳥と動物の 90%以上が人間と家畜、家禽によって占められており、残りの10%以下の中にその他の野生動物が押し込まれています。

農業の立場だけ考えれば、正しい事かも知れませんが、住民の視点、観光地としての視点、環境、生物の保護の視点を考慮することも必要ではないでしょうか

温暖化は食い止められるのか、生態系のメルトダウンは食い止められるのか、コロナはいつ終息するのか、SDGs に則しているのか、生物多様性は保たれるのか、今が正念場ではないでしょうか・・・。

古鷹山ビオトープ 秋の自然観察会

- 日　時：２０２２年 10 月 15 日（土） 9:00～11:00
- 場　所：広島県江田島市 古鷹山ビオトープ
- 参加者：　３６名（講師含む）
- 講　師：山本，清田，葉名，越智，中川（５名）
- 内　容：❶危険な生き物とビオトープの観察について
  ❷ビオトープの生き物採集と観察
  ❸火起こし体験 ＆ 焼き芋を食べよう！
  ❹ ビオトープで採集した生き物について

❶「危険な生き物」「ビオトープの観察について」

観察会について

危険な生き物について

「カマキリの卵の話」と
「昆虫採集について」

❷「ビオトープの生き物採集と観察」

どんな生き物がいるのかな!?

ガマの穂

❸「火起こし体験」＆ 焼き芋を食べよう！

舞錐式での火起こし体験

火起こし成功!!

今回は３名が火起こし成功!!

焼き芋 おいしいよ！

❹ 「採集した生物について他」と「今日の感想発表」

ガマの穂

観察会の感想発表